

センター14 幕政の展開

文治政治

【2003-追】

徳川綱吉の政治について誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 生類憐みの令を出して、犬をはじめとする鳥獣の保護を命じた。
- ② 貨幣の質を落とした改鋳を行い、物価の高騰を招いた。
- ③ 湯島に聖堂を建てて、学問所として整備した。
- ④ 側用人として、大岡忠相を重用した。

答⇒④

将軍	補佐役	政策と事件
家綱	【保科正之】会津大老:酒井忠清	1651 ✕【慶安事件】⇒【由井小雪】らの幕府転覆事件 1651 【末期養子の禁】緩和 1657 【明暦の大火】江戸の大半焼失 1663 殉死の禁止
綱吉	大老【堀田正俊】 ↓ 側用人 ⇒【柳沢吉保】	1684 堀田正俊暗殺される 1685 【天和】の武家諸法度…忠孝による秩序の強調 【湯島聖堂】建立⇒【林信篤】が大学頭へ 歌学方【北村季吟】天文方【渋川春海】⇒【貞享暦】 ⇒仏教を篤く信仰↓ 【生類憐みの令】生き物の保護を命じる 1695 【元禄金銀】(悪貨鋳造) ⇒勘定吟味役【荻原重秀】の建議 貨幣価値の下落は物価の高騰を引き起こした 1702 ✕【赤穂事件】起こる
家宣	侍講【新井白石】 側用人 ⇒閨部詮房	1709 生類憐みの令廃止 1710 【閑院宮家】の創設⇒朝廷との融和を図る 1711 【朝鮮使節】の待遇簡素化 将軍宛国書を「日本国大君殿下」から「 <u>日本国王</u> 」へ
家継		1712 勘定奉行:荻原重秀罷免 物価対策として元禄小判を改め、以前の慶長小判と同じ金含有率の【正徳小判】を鋳造⇒かえって経済が混乱 1715 金銀の海外流出を防ぐため【海舶互市新例】を出し、オランダ・中国(清)との貿易を制限 清船…30隻・銀高6000貫、蘭船…2隻・3000貫

名君と儒者 藩主と招かれた学者に注意

【2007-追】

前田綱紀について述べた文で正しいのは。

- ① 徳川家宣の侍講となり、幕政にも参画した。
- ② 会津藩主で、将軍家綱を補佐した。
- ③ 木下順庵を招き、学問の振興をはかった。
- ④ 閑谷学校を設け、教育の振興をはかった。

答⇒③

【2005-追】

「17世紀半ば以降、諸藩では、いわゆる名君が儒学者を顧問にして藩政の改革を進めた」に関連して、藩主とその儒学者の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 藩主:池田光政、儒学者:熊沢蕃山
- ② 藩主:池田光政、儒学者:藤田東湖
- ③ 藩主:徳川光圀、儒学者:熊沢蕃山
- ④ 藩主:徳川光圀、儒学者:藤田東湖

答⇒①

藩	藩主	招かれた学者	内容
岡山藩	池田光政	【熊沢蕃山】陽明学者	藩学=【花鳥教場】 郷学=【閑谷学校】
会津藩	保科正之	【山崎闇斎】朱子学者	闇斎⇒【垂加神道】を提唱
水戸藩	徳川光圀	朱舜水(明の儒者)	光圀⇒【大日本史】編纂
加賀藩	前田綱紀	【木下順庵】朱子学者	順庵の弟子が【新井白石】

新井白石の著作

史書	読史世論	独自の時代区分で朝廷や武家政権の推移を述べる
	古史通	古代日本史を合理的に解釈した研究所
自叙伝	折りたく柴の記	生い立ちや政治的体験談を記した随筆
地理学	西洋紀聞	西洋研究書、イタリア人宣教師【シドッチ】への尋問で得た知識をもとに執筆
	采覧異言	世界地理書、同じく尋問で得た知識

幕政の改革

【2000-本】古い年代順に配列

- ア 株仲間を解散させ、物価引き下げをはかった
- イ 七分積金をもとに、江戸町会所によって都市貧民を救済する体制がつけられた
- ウ 消防制度を整備して、町火消を設置した

答⇒ウ、イ、ア

【近世06】(2008年・本)江戸時代の貨幣。

1. 幕府が銀座を開設し、丁銀・豆板銀を鑄造させた。
2. 外国人が銀貨を日本に持ち込み、多量の金貨を海外へ持ち出した。
3. 金貨の単位で表された銀貨が、はじめて鑄造された。

答⇒

【近世06 解答】 [1→3→2] 1. 銀座が開設されたのは、江戸時代初期(17世紀初頭)。3. 南鐮二朱銀のこと、田沼時代(18世紀後半)に鑄造された。2. 安政の五カ国条約締結後の貿易開始により、日本は欧米に比して金安・銀高だったため金が海外へ流出した。

【近世07】(2000年・本)江戸の都市政策。

1. 株仲間を解散させ、物価引下げをはかった。
2. 七分積金をもとに、江戸町会所によって都市貧民を救済する体制がつけられた。
3. 消防制度を整備して、町火消を設置した。

答⇒

【近世07 解答】 [3→2→1] 3. 町火消は享保の改革(8代将軍徳川吉宗)で整備された。2. 七分積金は寛政の改革(11代将軍徳川家斉・老中松平定信)の政策。1. 株仲間解散は天保の改革(12代将軍徳川家慶・老中水野忠邦)。

享保の改革

人材登用	側用人の廃止⇒譜代大名の重視 1723【 足高の制 】⇒旗本の登用と経費削減 太岡忠相・神尾春央ら 【 荻生徂徠 】(政談)・【 田中丘隅 】(民間省要)らの登用
財政再建	儉約令 1722【 上げ米 】実施 大名1万石につき100石上納、江戸在府半減、参勤交代緩和 年具増徴:検見法⇒【 定免法 】 新田開発⇒【 町人請負新田 】の奨励
殖産興業	実学の奨励⇒漢訳洋書輸入緩和 商品作物栽培の奨励⇒甘藷栽培【 青木昆陽 】・樺・朝鮮人参
商業対策	物価高・米価安に対応 米価対策⇒堂島米市場公認、元文金銀(悪貨)の鑄造 物価対策⇒【 株仲間の公認 】

	商工業者の同業者組合を広く幕府公認とした
都市対策	【 目安箱 】設置⇒庶民の意見を聞く⇒【 小石川養生所 】設置する 防火対策⇒【 町火消 】の設置(いろは47組)
その他	【 公事方御定書 】制定⇒裁判基準、町奉行の大岡忠相が中心 【 相對濟し令 】⇒金銭貸借の訴訟は受理しない

田沼時代～寛政の改革

田沼時代	10代【 徳川家治 】 側用人【 田沼意次 】	重商主義政策…商業資本の利用 【 株仲間の奨励 】⇒運上・冥加の増収が目的 専売制の強化⇒銅座・真鍮座・朝鮮人参座 【 南鐮二朱銀 】の鑄造…定量計数貨幣 印旛沼・手賀沼の干拓⇒失敗 その他 長崎貿易の奨励⇒【 銅 】【 俵物 】の輸出奨励 蝦夷地開発計画 【 工藤平助 】⇒『赤蝦夷風説考』の影響 【 最上徳内 】の蝦夷地探検
		【 天明の飢饉 】⇒冷害と【 浅間山 】の大噴火による東北・関東を中心に被害 田沼政治への批判…賄賂政治、若年寄田沼意次の暗殺 徳川家治の死⇒田沼意次の罷免
寛政の改革	徳川家斉 老中【 松平定信 】	農村対策 【 囲米 】⇒各地に社倉・義倉設置 大名1万石につき50石の備蓄 都市対策 【 旧里帰農令 】⇒帰農の奨励 【 七分積金 】⇒町費節約分7割の積立 石川島に【 人足寄場 】⇒無宿人の収容、職業訓練 その他 【 棄捐令 】⇒旗本・御家人の札差への借金、一部帳消 【 寛政異学の禁 】1790 聖堂学問所で朱子学以外の講義禁止 寛政の三博士(柴野栗山・尾藤二洲・岡田寒泉) 昌平坂学問所1797⇒幕府直轄へ 出版統制⇒【 林子平 】(『海国兵談』)発禁 【 山東京伝 】(洒落本)・【 恋川春町 】(黄表紙)
		【 尊号一件 】1789⇒ 光格天皇 は父の閑院宮典仁親王へ太上天皇の尊号宣下を要求 ⇒松平定信が拒否⇒朝幕関係の悪化 徳川家斉と対立して松平定信失脚